

平成23年度

春の叙勲

東日本大震災の影響で、例年より2か月近く遅延した受章者への伝達が7月26日追分庁舎において胆振総合振興局副局長より受章者へ手渡されました。

瑞宝単光章（ずいほうたんこうしょう）

～国勢調査員～

かわさき のぶみち
川崎 信道氏

早来守田在住の川崎氏は昭和40年10月から国勢調査員として任命されて以来平成22年の調査までの45年間、調査員として従事。

その他にも農林業センサスや北海道農業基本調査などの調査員としても従事され、地域の調査対象者の信頼も得ながら行う調査は正確で迅速な精度の高い活動として評価されての受賞となりました。

川崎氏は農業に従事する傍ら昭和43年12月より早来町民生委員・昭和54年4月からは早来町社会福祉協議会理事となり平成7年4月から2年間は会長に就任し地域の社会福祉の増進に寄与されました。その間に早来町老人福祉施設検討委員会委員・農事問題委員会副委員長・青少年健全委員会委員・介護保険運営協議会委員・早来町介護保険事業計画検討委員会委員や地域福祉計画策定委員会委員などを歴任され町行政そして地方自治振興に大きく貢献したことが評価されました。



藍綬褒章（らんじゅほうしょう）

～農林業センサス調査員～

きばやし みちはる
木林 道治氏

追分美園在住の木林氏は昭和35年から平成22年に至るまでの間11回連続して農林業センサス調査員として従事。

この間北海道農業基本調査など農業に係る調査を継続して従事されていますが、それ以外にも国勢調査を4回行なうなど統計調査への功績は高く評価されました。

木林氏は農業を本業としながら昭和38年4月から追分町開拓農業協同組合の監事に就任。

その後同組合の理事として昭和41年4月から昭和48年8月までの間に火山灰地の土地改良を進め、耕地整備や農地造成など計画から事業の推進を行なうなど、地域農業の礎を築いた功績が評価されました。



瑞宝単光章は「国家又ハ公共ニ対シ積年ノ功労アル者」に授与されるとされ具体的には今回の場合「国及び地方公共団体の公務」又は「公共的な業務（民生委員など）」に長年にわたり従事して功労を積み重ね、成績を挙げた者を表彰する場合に授与する」とされています。

褒章は勲章（叙勲）の対象とはなりにくいですが、顕著な功績と認められるものに対して授与されるとされ、その中で藍綬褒章は「公衆の利益を興し成績著明なる者又は公同の事務に勤勉し労効顕著なる者」に授与されています。



厚生労働大臣特別表彰

～民生委員・児童委員～

7月26日追分在住の2名の方に厚生労働大臣の特別表彰状が瀧町長より伝達されました。

たけだ せつこ
武田 節子氏

武田氏は平成4年から平成22年11月までの18年間委員としての功績を評価されました。

ささき ともこ
佐々木 友子氏

佐々木氏は平成7年から平成22年11月までの15年間委員活動や平成5年から始めた共同募金推進員・日赤奉仕員として活躍している功績を評価されました。